

春の
4オケ祭
2026

第64回大阪国際フェスティバル2026

OSAKA INTERNATIONAL
FESTIVAL
大阪国際フェスティバル

踊る

大阪4オケ2026

4 ORCHESTRAS IN OSAKA 2026

4オケは



©山岸伸

関西フィルハーモニー管弦楽団

× 藤岡幸夫 (総監督・首席指揮者)

ヒナステラ: バレエ組曲「エスタンシア」
ファリャ: バレエ音楽「三角帽子」第2組曲



©ai ueda

大阪交響楽団

× 山下一史 (常任指揮者)

ラヴェル: バレエ組曲「マ・メール・ロワ」
「ダフニスとクロエ」第2組曲



©hiro.pberg_berlin

日本センチュリー交響楽団

× 出口大地

團 伊玖磨: 管弦楽幻想曲「飛天繚乱」
バルトーク: 舞踏組曲



©Martin Richardson

大阪フィルハーモニー交響楽団

× 尾高忠明 (音楽監督)

チャイコフスキー:
バレエ音楽「白鳥の湖」(尾高セレクション)

2026

4.18[±]

14:00開演(13:00開場) フェスティバルホール
※18:00ごろ終演予定
大阪市北区中之島2-3-18

チケット一般発売
2025 12/20[±]
10:00

チケット料金 (全席指定・消費税込み)

S席 10,000円 / A席 7,500円 / SS席 11,500円 / BOX席 15,000円 / バルコニー BOX席 (2席セット) 20,000円 / 学生席 3,500円

※バルコニー BOX席のご予約はフェスティバルホール チケットセンターの電話のみ(インターネット購入不可)

※学生席はフェスティバルホール チケットセンターのみで販売(25歳以下/学生本人の名前でご予約ください/当日指定券と引き換え/引き換え時、学生証をご提示ください)

チケット・
お問い合わせ

フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) <https://www.festivalhall.jp> [要事前登録]

※フェスティバルホール「友の会」優先予約: 2025 12/14^日 10:00~ ※窓口での取り扱いは2025 12/21^日 10:00~ (残席がある場合のみ)

主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホール、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー協会、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団

協賛: 朝日放送グループホールディングス、サントリーホールディングス、大和ハウス工業、竹中工務店

※やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。※未就学児のご入場はご遠慮ください。

大阪4オケ、2026年のテーマは「4オケは踊る♪」

バレエ音楽、舞曲など、思わず身体を動かしたくなるような曲を披露します。

大阪に拠点を置く4つのオーケストラがフェスティバルホールに集結する「大阪4オケ」。

12回目の今回は「踊り」をテーマに、各オケが選りすぐりのプログラムをお届けします。

指揮棒の一振りごとに、奏でられるすべての音が色彩豊かに舞い踊ります。

響きのひとつひとつがあなたの心を揺らし、気づけば鼓動までもがリズムを刻む——。

音楽と心がひとつになる、熱狂の午後をお楽しみください。

1 藤岡幸夫 [指揮] (総監督・首席指揮者) 関西フィルハーモニー管弦楽団

関西ならではの音楽の祭典「4オケ」、毎回本当に楽しみにしています！

今回のテーマ「4オケは踊る♪」は、まさに音楽の原点そのもの。リズムに心が動き、体が自然に揺れ、音楽の楽しさを純粋に感じられる素敵なテーマです。

今回、関西フィルは南米とスペインを舞台にした情熱のプログラムで挑みます！ヒナステラ《エスタンシア》とファリャ《三角帽子》、どちらも躍動感とエネルギー、そして色彩感あふれる傑作です。関西フィルの持ち味であるエネルギー、明るさ、そして音色の華やかさが最も発揮されるプログラムだと思います。

関西フィルとは26年目のシーズンを迎えます。総監督・首席指揮者という新しい立場で、長い年月を共に重ねてきた仲間たちと、これから音楽を通してお客様と心を通わせていけたら幸せです。

踊り出したくなるようなリズム、そして心が躍るような瞬間を、藤岡 & 関西フィルの渾身の演奏でぜひお楽しみください！



©青柳聡

2 山下一史 [指揮] (常任指揮者) 大阪交響楽団

今回の「大阪4オケ2026」のテーマは「4オケは踊る♪」。大阪交響楽団はモリス・ラヴェルの対照的なバレエ作品を2曲演奏します。

先ず「マ・メール・ロワ」。「マザー・グース」を題材にピアノ連弾用(友人の2人の子供のために)に書かれたシンプルで夢に溢れた作品を、ラヴェル自身が管弦楽に編曲したものです。

「ダフニスとクロエ」は、「オーケストレーションの天才」(ムソルグスキーの「展覧会の絵」の見事な編曲でもご存じの通り)、「管弦楽の魔術師」と呼ばれたラヴェルの真骨頂が聴ける作品です。

昨年の「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」(大響にとっては初挑戦でした)、外山雄三「管弦楽のためのラブソディ」でもご好評を頂いた、「歌心」と「乗りの良さ」は我々大阪交響楽団の大いなる長所と自負しているところです。「4オケ」では、ドイツロマン派の作品を主に取り上げてきた我々ですが、「フランスもの」への挑戦、これからわくわくしています。

乞うご期待！



©飯島隆

3 出口大地 [指揮] 日本センチュリー交響楽団

今回のテーマは「踊り」ということで、日本センチュリー交響楽団の特徴であるエネルギーあふれる機能美、楽団の個性が十分に伝わる踊りは何かと考えたところ、真っ先に思い浮かんだのが「飛天繚乱」でした。團伊玖磨先生がまさにセンチュリーのために書かれた作品、天女の優美な舞をご堪能いただければ幸いです。

そのカップリングとして、同じく東洋的な楽想でありつつも土俗的な薫りも漂う、バルトーク「舞踏組曲」をお届けします。コンパクトな編成ながら各セクションの名人芸が際立つこの作品、センチュリーの特徴を存分に発揮できるかと思います。

大阪の4つのオーケストラが一堂に会する豪華な祭典でもあり、ガチンコ勝負で張り合う闘技場のような雰囲気……例年楽しそうだなあ、大変そうだなあと他人事で見ていたこの一大イベントに、まさか自分が関わる日が来るとは、驚きと重圧を隠せませんが、大好きなセンチュリーの魅力を最大限お届けできるよう、精一杯尽力したいと思います。



©threphong_berlin

4 尾高忠明 [指揮] (音楽監督) 大阪フィルハーモニー交響楽団

チャイコフスキーはロシアの中でヨーロッパの音楽教育を身につけた最初の1人であり、勿論その人気だけではなく、実に偉大な作曲家です。チャイコフスキーの数ある名曲はどれも素晴らしいのですが、バレエ音楽が圧倒的な存在であり、中でも「白鳥の湖」は最高傑作です。ところが、一つ厄介なことがあり、その組曲の構成が今ひとつ納得のいくものではないのです。このドラマの中で、終曲はまさに白眉。しかし、その終曲が組曲には組み込まれていません。その理由は組曲が小さめのオーケストラで演奏できるものに絞ったと推察されるためです(その方が再演されやすいので)。また実際のバレエ公演では、オーケストラがピットに入るため、通常より少ない人数の弦楽器で演奏します。となれば音量が足りません。この素晴らしい楽曲をフル編成で聴くと終曲も含めて圧倒され、私も毎回涙が出てきてしまいます。ぜひ巨匠の超名曲をフェスティバルホールの素晴らしいサウンドでお楽しみください。



©飯島隆

チケットぴあ <https://t.pia.jp> [Pコード:312-706]
ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード:55878]
CNプレイガイド <https://www.cnplayguide.com/> 0570-08-9990
e+(イープラス) <https://eplus.jp/>
セブンチケット <https://7ticket.jp/sc/21nh>

●各オケ会員先行予約: 2025 12/15 [月] ~ ●各オケ一般発売: 2025 12/22 [月] ~

大阪交響楽団	072-226-5522 (平日10:00~17:00)
大阪フィル・チケットセンター	06-6656-4890 (平日10:00~18:00/土曜10:00~13:00/日祝休み)
関西フィルハーモニー管弦楽団	06-6115-9911 (平日10:00~17:00/土曜10:00~16:00/日祝休み)
センチュリー・チケットサービス	06-6848-3311 (平日10:00~18:00)